

## 地域活動拠点において看護学科が提供するall generationの健康支援に向けた実践モデルの検討

著者	庄司 靖枝, 尾? 優子, 畑 吉節未, 生島 ?江, 尾? 雅子, 岩越 美恵, 柳本 有二, 長尾 厚子, 鎌田 美智子
雑誌名	神戸常盤大学紀要. 別冊
号	13
ページ	18-18
発行年	2019-10-31
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1492/00001069/">http://id.nii.ac.jp/1492/00001069/</a>

3-P-11

### 地域活動拠点において看護学科が提供する all generation の健康支援に向けた実践モデルの検討

庄司靖枝<sup>1)</sup>

尾崎優子<sup>1)</sup> 畑吉節未<sup>1)</sup> 生島祥江<sup>1)</sup> 尾崎雅子<sup>1)</sup>  
岩越美恵<sup>1)</sup> 柳本有二<sup>1)</sup> 長尾厚子<sup>1)</sup> 鎌田美智子<sup>1)</sup>

本学は、平成 29 年度私立大学研究ブランディング事業、「地域子育てプラットフォームの構築を通じた All-Win プラン」に採択され、特に子育て支援のフィールドを拡張してきた。本研究は、看護学科がこれまで学内外で展開してきた健康支援活動を基盤としながら、子育て支援の場が有するプラットフォームとしての意義に着目し理論的考察を加えることによって、ヘルスプロモーションの新たなかたちを探るものである。

子どもが健やかに育つためには、現代社会の持続可能性を脅かす様々な問題との複合的な関係の中で、既に問題に取り組んでいる多様なステークホルダーとのつながりによって統合的な支援が展開される必要がある。文献検討の結果、健康支援活動の基本原則であるヘルスプロモーション戦略とエンパワメントの価値を実質化するには、子どもや子育てを介して活動することが有効ではないかという仮説が導出された。更に、多様なステークホルダーが有機的につながるための枠組みとして<いのちの持続性>の概念を取り上げ、子どもの存在を中核とする健康支援実践モデルを試案として作成した。これは、あらゆる世代の健康づくりを子どもの存在を通して展開するための枠組みであり、複合的な課題に対し人びとのネットワークを促進する可能性をもつものとして考察された。

---

1) 保健科学部看護学科